

本校の学力・学習状況調査の結果について

本年度の全国学力・学習状況調査は、4月18日（木）に全国の小中学校において実施されました。本年度の全国学力・学習状況調査の調査内容は以下のような構成となっています。

教科に関する問題

- ① 「身につけておかなければ後の学年等の学習に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等
 - ② 知識・技能を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立てて実践し、評価・改善する力等の2つを一体的に問う構成となっています。また、記述式の問題を一定割合で導入しています。
- ・生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査

この調査の目的は、児童の学力や学習状況を把握・分析し、各教科における課題や生活状況の実態などを明らかにすることにより、今後の指導内容や指導方法の改善、生活指導などに生かしていくことにあります。

7月末に文部科学省から本校児童の調査結果が送付され、結果分析を行いました。このたび、分析が終了いたしましたので保護者の皆様にお知らせいたします。（本校のHPにおいても同じ内容について公表を行います。）

分析結果の概要

1 本校の教科に関する問題の状況（全国・山梨県との比較）

本校の状況は、次の通りです。

【国語】全国平均・県平均のいずれも下回っている。

【算数】全国平均・県平均のいずれも下回っている。

	国語 正答率	算数 正答率
全国平均	67.7	63.4
山梨県平均	68	62

2 本校の教科に関する問題における主な課題

今後、さらに学力を向上させていくために、課題となる点について抽出してみました。（正答率の低い問題について抽出しています。）

なお、調査問題については、国立教育政策研究所 HP (<https://www.nier.go.jp/24chousa/24chousa.htm>) において閲覧できます。

【国語】

問題番号	問題の概要	出題の趣旨
1二(2)	オンラインで交流する場面における和田さんの話し方の工夫として適切なものを選択する	資料を活用するなどして、自分の考えが伝わるように表現を工夫することができるかどうかをみる
2二	【高山さんの文章】の空欄に入る内容を、【高山さんの取材メモ】を基にして書く	目的や意図に応じて、事実と感想、意見とを区別して書くなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができるかどうかをみる
3三	【物語】を読んで、心に残ったところとその理由をまとめて書く	人物像や物語の全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりすることができるかどうかをみる

【算数】

問題番号	問題の概要	出題の趣旨
3 (3)	直径22cmのボールがぴったり入る箱の体積を求める式を書く	球の直径の長さや立方体の一辺の長さの関係を捉え、立方体の体積の求め方を式に表すことができるかどうかをみる
4 (3)	家から学校までの道のりが等しく、かかった時間が異なる二人の速さについて、どちらが速いかを判断し、そのわけを書く	道のりが等しい場合の速さについて、時間を基に判断し、その理由を言葉や数を用いて記述できるかどうかをみる
5 (3)	折れ線グラフから、開花日の月について、3月の回数と4月の回数の違いが最も大きい年代を読み取り、その年代について3月の回数と4月の回数の違いを書く	折れ線グラフから必要な数値を読み取り、条件に当てはまることを言葉と数を用いて記述できるかどうかをみる

3 各教科における主な課題を改善するための手だて

【国語】

- ☆ 自分の考えと理由や事例との関係を明確にしたり、事実と感想、意見とを区別して自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫したりすることに関する指導の充実が大切である。具体物や図表等を活用しながら伝えたりできるように指導していく。資料活用のために、積極的に図書館を利用し、複数の本や新聞などを活用して調べたり考えたりしたことを報告する活動に積極的に取り入れる。
- ☆ 自分の考えを表出する機会をもつことがとても重要である。ICT機器を効果的に活用し、考えを表出することへの抵抗感をなくしていきたい。本調査のように、自分の考えをまずメモに書き出し、整理をして、文章にしていくような工夫も取り入れていきたい。
- ☆ 聞くときは、相手の興味をもっていること、一番いたいことなどを捉えられるようにしたり、その話を受けて質問したりインタビューしたりする取組を通し、必要なことについて自分の考えを示したり記述できるようにしたい。特に、直接に顔を見合って話し合い等の設定することが大切である。

【算数】

- ☆ 図形について基礎的・基本的な知識・技能は身に付けた上で、図形を構成する要素を見だし、活用できるように指導することが必要である。
- ☆ 速さの意味について、道のりと時間の関係から捉えた上で、指導していくことが必要である。速さなど単位量当たりの大きさの意味や表し方を理解するとともに、場面や目的に応じて比べ方を考察し日常生活に生かせるように指導することが大切である。
- ☆ 折れ線グラフから必要な数値を読み取り、条件に当てはまることを考えたり、見いだしたことを表現したりする指導が大切である。

4 質問紙調査の結果から見られる特徴

本校児童の生活習慣や家庭学習などの状況から特徴として挙げられる点についてまとめます。

【基本的な生活習慣等について】

- 朝食を毎日食べる、就寝、起床に関わる生活習慣については肯定的回答が全国、県を上回っている。(全国、県を上回っている。)
- 「携帯電話・スマートフォンやコンピュータの使い方について、家の人と約束したことを守っていますか」という問いには84.5%が肯定的な回答。(全国、県を上回っている。)
- 普段(月曜日から金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、テレビ、スマホ、ゲーム機器等で動画視聴をしているかについては、多くの児童が長時間使用している。(全国、県平均より長時間使用。)

【規範意識、自己有用感等について】

- 「困りごとや不安があるときに、先生や学校にいる大人にいつでも相談できますか」という問いには、89.6%が肯定的な回答（全国、県を上回っている）。

【学習習慣等について】

- PC・タブレットなどのICT機器を活用する学習について「楽しみながら学習ができて」「自分の意見や考えをわかりやすく伝えることができている」ICT機器を活用した学習ができていますか。」という問いでは、いずれも肯定的な回答が全国、県を上回っている。）

5 質問紙調査の結果から改善していきたい点**【基本的な生活習慣等について】**

- ☆ 「早寝・早起き・朝ご飯」についてはとても良い傾向にありますが、さらに向上させるためには、「早寝」「早起き」について、「自分で」という意識をもたせたいところです。とりわけ、「自分で起きる」ということが自立に向け大切な観点になってきます。
- ☆ 「携帯・スマホ・PCの使い方」については、家庭で約束したことを守っている児童が多い結果となっていますが、基本的な生活習慣をつくっていくためにも、保護者や地域と連携し、継続した取組を行っていただければと考えます。ただ、使用に関してのマナー等については守っていても、時間に関してはつい長時間使用してしまう児童もいるようです。使用時間について見直す機会を設け、生活習慣と同様に「自分で時間を決める」ことが大切です。

【規範意識・自己有用感等について】

- ☆ 自分大切に思ってくれる大人がいて、「いつでも相談できる」という意識をもっていることは、自分を大切にすることにつながります。これからも子どもたちの心の声を聞くことができる体制を大切にしたいと思います。
- ☆ コロナ禍で薄くなってしまっていた人との交流について、地域の方との交流や友達同士の関わりを含め、積極的に機会を設けていくことで、人とつながるよさ・あたたかさを実感し、人や社会と関わる姿勢をもてるようにしていきます。グローバル化が急速に進展する中、自分と考えや習慣の違う人々と交流する中でも、こうした意識で関わりあうことができるような力を付けていくことができればと考えます。

【学習習慣等について】

- ☆ 中学校生活に向け、自分でしっかり計画を立てて学習に取り組むことについて意識付けをしていきたいと考えています。そのとき、ICT機器を効果的に活用することが学ぶ意欲につながる傾向があるので、家庭学習を含め、指導方法等の工夫を積極的に取り入れていきます。

保護者の皆様へ

羽黒小学校では、子どもたちの学力向上を目指して、

- ・ 1人1台端末等のICT機器を活用したわかる授業、楽しい授業の実施
- ・ 動き出したくなる課題の提示、学びの過程がわかる板書とノート指導の充実
- ・ 自力解決の時間の確保やペアやグループ学習・全体検討などの場の設定
- ・ 読解力、記述力を育む言語活動の充実

等、授業改善に取り組んでいます。

今後も、全国学力・学習状況調査の分析結果を参考に、学力向上を目指し、教職員一丸となってわかる楽しい授業に努めてまいります。

また、GIGAスクール構想による1人1台端末（Chromebook）を効果的に活用しながら、子どもたちと共に、一歩ずつ実践や経験を積み重ね、平素の授業づくりにも生かしていきたいと考えております。

ご家庭におかれましても、引き続き、「家庭学習のてびき」を参考にいただき、子どもたちへの励ましの声かけや、学習の意義などについて話し合うことなどを通して、学習環境を整えるなど、ご理解とご協力をお願いいたします。